



「座右の銘」

みなさんの大切な「言葉」を教えてください

私たちは普段、特に意識することなくさまざまな「言葉」を使っています。そのような何気ない「言葉」ですが、時に自分の限界や壁を打ち破るきっかけとなったり、人生の方向性を決定したりするなど、実は大きな力を持っています。

新しい年を迎えた今、気持ちを新たに抱負や決意などの「言葉」を心に誓う方もいらっしゃるのではないのでしょうか。そこで今回は、市民の皆さんとかかわりの深い団体や組織の代表者など13人の方に「座右の銘」と銘打って、大切にされている「言葉」を伺いました。団体・組織の活動と併せて紹介します。(掲載は順不同・敬称略) 問合せ 秘書広報課

目まぐるしく変化する社会を生きる

私たちにとっての「座右の銘」とは？

「座右の銘」といえば、よくスポーツ選手などが自分を奮い立たせる言葉として掲げているのを耳にします。

あるインターネット上の調査によると、半数以上の人が「座右の銘」、つまり、生きる上で何かしら大切にしている「言葉」を持っていると答えました。世代別では、60歳代において7割の方が「座右の銘を持っている」と回答するなど、人生経験が豊富になるほど「座右の銘」を大切にしているようです。

それでは、「座右の銘」を持つことで、どんな効果があるのでしょうか。調査では、「つらい時・苦しい時・悲しい時に励みになる」といったように、心が折れた時や

落ち込んだ時に本来の自分を取り戻すきっかけとなるという意見や、「とにかく前向きに楽しく生きられる」「不安や悩みを一蹴し、ポジティブな思考へチェンジできる」といった、物事のとらえ方を変えたり、自分に自信を持てるようになったなどの回答がありました。不安を多く抱える現代社会を過ごす上で、自分なりの目標や信念などといったものがあると大きな助けになります。

「座右の銘」とは、時に励ましであり、目標であり、理想であり、戒めでもあります。これは人それぞれ

の「人生を生きやすくするための言葉」と言えるかもしれません。



副市長 中澤 弘行

～座右の銘～ 「志高く清遠」

「志を高く持ち、世俗の垢にまみれない清らかな心で、遠大な理想を持って生きる」ということ。これは、山崎豊子さんの中国残留孤児の苦闘の生涯を描いた「大地の子」という小説の中に出てくる言葉です。中国残留孤児である陸一心を引き取った老教師が、生徒たちに「志高く清遠」という言葉を贈ったと小説の中で書いてあります。この本を読んでから、自分自身もこのような考え方で、日々の人生を送りたいと思っています。



～座右の銘～ 「一生懸命」

教育委員であれ、子どもの学校のPTA会員であれ、それは役職ではなくて、今現在与えられた役割であると考えています。引き受けた以上、また、与えられたのであれば、精一杯やるのが大事なことでと考えています。もちろん、できることもあれば、できないこともあります。思い通りにいくこともあれば、いかないこともあります。しかし、最善を尽くすということはもちろんですが、「一生懸命にやる」ことは誰にでもできることです。

◆清瀬市教育委員会＝「命を大切に」「地域と共に子どもを育む」「基本的な生活習慣を育む」「美しい緑・自然と文化を誇る」「学校が自信を持ち、信頼される」「生涯学び社会に貢献する」清瀬を基本方針に、「当たり前前」のことが「当たり前」にできる教育を目指します。

清瀬市教育委員会 松村 重樹 委員長

～座右の銘～ 「仕事に学び 人に学ぶ」

初めて体験する仕事、初めて会う人との出会い。いつも緊張と不安を感じながら精一杯取り組み、終わった時の達成感。農業委員に任命されて12年、これまで多くの人たちの助言と協力をいただき、ここまでこれました。今日も新たな仕事と出会いが待っています。最後に「助かったよ。これからもお願いしている」と言ってもらえた時の喜び。毎日が学びの出会いであり、新しい経験。農業委員会の仲間と協力し、ともに歩む今年1年。

◆清瀬市農業委員会＝独立した行政機関で、農地法に基づく法令業務や知事諮問、農地利用状況調査などを通じ、農地の適正管理に取り組む他、中学生の職場体験や「きよせひまわり市」「農業まつり」など、地域振興活動に携わっています。

清瀬市農業委員会 松村 俊夫 会長

～座右の銘～ 「継続は力なり」

地域の防犯や安全・安心には、どんなに小さなことでも最後まであきらめずにコツコツと続けていくことが大切です。犯罪を起こしにくい環境や一人でも多くの方が犯罪の被害に遭わない社会の実現のためにも、防犯パトロールや振り込め詐欺被害防止などの駅前キャンペーンといった活動を、今後も大切に続け、着実に取り組んでいきたいと思ひます。

◆清瀬市防犯協会＝防犯意識の向上や犯罪のない安全で安心して暮らせるまちを目指し、市内の防犯パトロール(小・中学校の夏休みなどの時や歳末)や防犯グッズ配布などの犯罪被害防止のための駅前キャンペーン(月1・2回)を実施しています。



清瀬市防犯協会 村野 勝夫 会長

～座右の銘～ 「災害は忘れた頃にやってくる・備えあれば憂いなし」

「大きな災害の直後は、人々の心構えはしっかりしているが、時がたって忘れた頃に、災害は再び見舞うものである」。そして、「普段から非常事態の準備をしていれば、いざという時に心配はいらない」という簡単な内容です。しかし、なかなかできないからこそ、こうしたことわざがあるのでしょう。私たちは日頃から災害に対して危機管理能力を高め、隣近所同士のつながりを持ち、明るい地域社会をつくるのが大切かもしれません。

◆清瀬市消防団＝団本部及び7つの分団で構成され、143人の団員が「郷土愛の精神と確固たる使命感」を持って、市民の皆様の生命・身体・財産を守り、安全・安心なまちづくりに向け、日々精進を重ねています。



清瀬市消防団 小寺 正明 団長